

“秋の実態調査を行いました”－9月14日（日）－

桜並木には、黄色く色づき始めたばかりの落葉がちらほら見え、昨年秋の雨の実態調査とは違って、朝から少し蒸し暑く、一日中曇りでした。

参加者は、今回の調査でご指導いただく石井樹木医、日頃桜並木の管理に直接携わる区の方を含め、上北沢桜並木会議の会員等17名でした。

今年の実態調査は、予定されている桜並木東側の水道工事を前提に、桜木の樹勢を把握し、工事による桜木への影響を最小限に抑える対策を考える機会ともなりました。午後は場所を区民センターの会議室に移して、石井樹木医の調査まとめとセミナーが行われました。



実態調査の概況

- ・過去に胴巻きをした桜木は順調に回復している。
- ・キノコの害（ナラタケモドキ、ベッコウダケ）が増えている。ナラタケモドキによって、No.5は、昨年枯死した桜木を伐採。秋に植え替えをしたが、冬には枯死した。No.3 2、No.4 2は、近々枯死する可能性大きい。
- ・5月の薬剤散布の効果は大きいですが、モンクロシヤチホコの被害は、減っていない。
- ・害虫のコスカシバは減っている。
- ・車による擦傷、箇所は減っていない。
- ・弱った桜木への枝きりによる回復効果は大きいと思われる（No.4 7、他）。

水道工事への注意と対策

- ・アスファルトでの根の盛り上がり箇所は太い根があり、注意して傷をつけず掘ること、その場合、500円玉以上の太さの根を出来るだけ切らないこと。切った後は、消毒薬を塗ること。
- ・BCブロックのうちNo.3からNo.7までにナラタケモドキの菌糸が散らばっている。広範囲の土壌改良を期待する。
- ・No.3からNo.7までとNo.13からNo.16まで、ナラタケモドキの影響で弱っているため、根きりによる菌糸の感染が促進される恐れある。



モンクロシヤチホコが大発生している。



根が道路の下に入り、アスファルトを持ち上げている。

昨年の調査時との桜並木の変化

石井樹木医の評価では、昨年に比べてBランクからAランクへと格上げされ良化した桜木は、No.2、10、13の3本です。

一方、格下げされた桜木は、No.42と15の2本でした。とくに、No.42の悪化は、突然の悪化であり、あらためて、ナラタケモドキの被害の恐ろしさを知らされました。

区設定 コード 樹木番号	石井樹木医の評価		変化
	2007/9/30	2008/9/14	
2	B	A	↗
10	B	A	↗
13	B	A	↗
15	A	B	↘
42	A	C	↘

不定根による世代交代(更新)

がんばる桜

公園にある桜や土と空間の多い桜並木とは違って、上北沢の桜並木には、わずか270mの間に50本の桜が植えられています。周囲の住宅とわずかな土の植樹の環境は、良いものとはいえません。

このような劣悪な環境の下で桜木は如何に80年を生き延びてきたのであろうか。桜には、忌地(いやち)現象と言うのがあって、桜木がいったん枯れたら、土壌改良をしない限り、続けて同じ場所に若木を植樹しても育ちにくいという現象があります。老木でも簡単には伐採できない事情がここにあるのです。

上北沢の桜並木は、沿線住民の方々の見守りによって、老木がキノコや害虫の被害を受けても、これらには負けずにがんばり、老木自らが蘇ることを助けるという方法を行って参りました。見た目は、形は悪く、一見病気ではないかと誤解される不定根による再生という方法です。とくに、ここ上北沢桜並木のように近年、根を張るスペースが少なく、生育条件が悪いところでは、桜木自らが選択の余地がなく、不定根を促進するのではないかと考えられます。もちろん人間が胴巻きをして、不定根の成育を促したことは大きな効果があったと思われます。幹の途中から出た不定根は、大きな幹に入り込み、次第に太くなり、やがては、本来の幹を朽ちさせる。見事な更新が行われてきたのです。桜木自らが必死に生き延びる姿を見て、人間が手を貸して来たその歴史であったのではないかと考えてしまいます。



No. 45 良性のコブ



No. 10 不定根